

# 輸出貨物の鉄道輸送実証着手

## ■成田空港向け、振動など計測

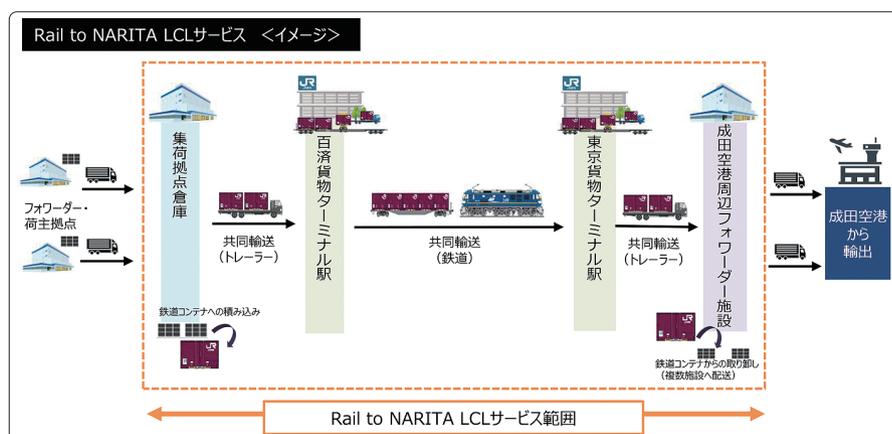
成田空港から輸出される貨物を対象とした鉄道共同輸送サービスの実証事業が開始された。関西地区から成田空港向けの貨物に関して、鉄道輸送時の振動などを計測した。成田国際空港会社（NAA）は、「新しい成田空港」構想で計画している新貨物地区に関して、モーダルシフト推進のために、航空貨物と鉄道輸送をシームレスにつなぐ仕組みの構築を目指している。

NAAは日本貨物鉄道（JR貨物）、日本フレートライナーと「成田空港モーダルシフト推進協議会」を立ち上げ、関西発成田空港向けの輸送で環境にやさしい鉄道共同輸送サービス「RAIL to Narita LCLサービス」の構築について検討を進めている。

現在、関西で生産された製品を成田空港から輸出する場合には、関西地区から成田空港向けの国内輸送の多くがトラックで行われている状況にあり、二酸化炭素削減や長距離ドライバー確保などの課題が今後さらに顕著になる可能性が懸念されている。

鉄道輸送は一度に大量輸送が可能で二酸化炭素排出量の少ない輸送手段だが、利用にあたってはコンテナ単位の契約となるため、重量が軽く、高価な製品が多い航空貨物での利用が難しいという課題があった。

NAAがプラットフォームとしてLCLサービスの立件、フォワーダーへ



※成田国際空港会社資料より

の利用働きかけを行い、JR貨物、日本フレートライナーが企画販売および輸送サービスを提供することで、協議会として小ロット（パレット）単位でも利用可能な鉄道共同輸送サービスの実証事業を行うことになった。

プロジェクトの対象貨物は、関西地区から成田空港周辺のフォワーダー施設（保税蔵置場）に輸送され、成田空港から輸出される航空貨物。対象社は成田空港発国際貨物の輸送手配を行

うフォワーダー。NAAなどは実証事業を通して課題やニーズの洗い出しを行った上で25年度の本格運用開始を目指している。路線の拡大、輸入貨物の取り扱いも順次検討するもようだ。

今回の実証事業開始を受けてNAAは「前向きなオプションとしてプロジェクトを活用していきたい」と説明。「新しい成田空港」構想を前にした早い段階でも、積極的に実証事業に取り組む意向を示した。